



子どもの水の事故を防ごう！

最近ニュースで子どもの水の事故がたくさん報道されています。日本では、0～1歳では浴槽での溺死、より活動的になる5歳以上では、自然領域での溺死が最も多く発生しています。子どもの水の事故を防ぐためのポイントを確認しましょう。

子どもは声や音を出さず静かに溺れることもあります。少しの時間、少しの水量と油断せず、子どもの見守りと合わせて溺水事故が起こらない環境づくりを行いましょう。

子どもの見守り ・ 大人が髪の毛を洗ったり、メイクを落とす時は、子どもを浴槽から出しましょう。

- ・ 子どもは大人の後には浴室に入れ、先に浴室から出しましょう。
- ・ 子どもだけで入浴させないようにしましょう。

浴室等の水回りの環境づくり ・ 子どもが小さいうちは、入浴後は浴槽の水を抜くことを習慣にしましょう。

- ・ 子どもだけで浴室に入れないよう、ベビーゲートなどを設置しましょう。
- ・ 洗濯機、洗面器、バケツに水をためたままにしないようにしましょう。

海・川・プール等での水の事故を防止するためのポイント

海 ・ ライフセーバーや監視員等がいるなど、適切に安全管理が行われている海水浴場で、指定された遊泳エリア内であることを確認して泳ぎましょう。必要に応じて、ライフジャケットを使用しましょう。遊泳禁止となっている場所では、絶対に泳がないでください。

- ・ 堤防などで釣りをする際にも、海への転落の危険があります。滑りにくく、かかとのある履物を履いていきましょう。

川 ・ 川の流れは一見穏やかそうに見えても、流れが一定ではないこともあります。川に行くときは必ず滑りにくく脱げにくいかかとのある履物を履き、ライフジャケットを着用しましょう。

- ・ 今いる場所は晴れていても、上流などで雨が降ると、一気に水位が上昇し危険になることがあります。天候が悪いときや上流で雨が降っているときなど、増水するおそれが高いときには、川に近づかないようにしましょう。

プール ・ 飛び込みやプールサイドからのジャンプは、重大な事故につながります。禁止事項などが定められていたら必ず守りましょう。吸い込まれると危険なので、排水口には近づかないように！

- ・ 遊具や台などの下にもぐらない！特に水上設置遊具を利用する際には、係員の指示に従い、適切な遊び方・注意事項・禁止事項を守りましょう。

- ・ こどもの体調を確認し、体調がすぐれないときは、遊ぶのはやめましょう。

